

平成 16 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 新日鉱ホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 清水康行
コ ー ド 番 号 5 0 1 6
問 合 せ 先 総務グループ（IR・広報担当）
シニアオフィサー 八牧暢行
電 話 番 号 03-5573-5123

米国電子材料子会社における減損損失および当社の関係会社株式に対する評価損の計上
ならびに個別業績予想の修正について

当社は、本日（平成 16 年 11 月 11 日）開催の取締役会において、米国電子材料子会社における減損損失および当社の関係会社株式に対する評価損の計上ならびに個別業績予想の修正を決議しましたので、下記のとおりその内容をお知らせいたします。

記

1．米国電子材料子会社における減損損失の計上

株式会社日鉱マテリアルズ（以下「日鉱マテリアルズ」）の 100%出資子会社であるニッコーマテリアルズ・ユーエスエー社（以下「NMUS社」）による銅箔事業は、数年来の欧米市場の需要低迷等から業績不振に陥っており、これまで工場統廃合、本社機能の集約等のリストラ策を進めてきました。

しかしながら、欧米の電子部品業界がアジアに生産をシフトする動きを強めていることもあり、今期も需要が十分に回復せず、連続して損失計上を余儀なくされる見込みであります。

このような状況を踏まえ、米国会計基準に基づき、銅箔事業に係る営業権等について、当中間連結決算において、減損損失 87 億円（80 百万米ドル）を計上します。

なお、欧米における銅箔事業を早期に再構築するため、本年 12 月、従来 NMUS 社の傘下にあったドイツの銅箔事業会社を日鉱マテリアルズの直轄子会社とすることとしました。

2．当社の関係会社株式に対する評価損の計上

日鉱マテリアルズは、銅箔事業において連続して損失を計上した NMUS 社に対する投融資について、損失計上が必要となりました。このため当社は、日鉱マテリアルズ株式の実質価額が著しく低下したため、「金融商品に係る会計基準」に基づき、当中間個別決算において、関係会社株式評価損 140 億円を計上することとしました。なお、日鉱マテリアルズは連結子会社のため、連結決算に与える影響はありません。

3．個別業績予想の修正

上記関係会社株式に対する評価損を計上することに伴い、平成 16 年 5 月 12 日および平成 16 年 8 月 18 日に公表した個別業績予想を下記のとおり修正します。

・平成 17 年 3 月期中間個別業績予想数値の修正（平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 9 月 30 日）
（単位：百万円）

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A） （平成 16 年 8 月 18 日発表）	4,700	1,700	3,500
今回実績（B）	4,739	2,074	10,360
増減額（B - A）	（○）39	（○）374	（×）13,860
増減率	0.8%	22.0%	- 396.0%

<修正の理由>

中間純利益は、上記 2. に記載のとおり、関係会社株式評価損 140 億円を計上したこと等により、139 億円減少の 104 億円となりました。なお、本件は、関係会社株式評価損の対象会社が連結子会社であるため、連結決算に与える影響はありません。

・平成 17 年 3 月期個別業績予想数値の修正（平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日）
（単位：百万円）

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A） （平成 16 年 5 月 12 日発表）	10,000	5,200	5,500
今回修正予想（B）	7,000	1,000	8,000
増減額（B - A）	（×）3,000	（×）4,200	（×）13,500
増減率	- 30.0%	- 80.8%	- 245.5%

<修正の理由>

経常利益は、子会社からの配当金収入の減等により、42 億円減少の 10 億円となる見込みです。当期純利益は、上記 3- に記載のとおり、関係会社株式評価損 140 億円を中間個別業績に計上したこと等により、135 億円減少の 80 億円となる見込みであります。なお、本件は、関係会社株式評価損の対象会社が連結子会社であるため、連結決算に与える影響はありません。

期末配当金については、平成 16 年 5 月 12 日発表のとおり、1 株当たり 8 円を予定しております。

以 上